

“納得いく調査を” “被災者に寄り添った支援を” 鳥取県委員会と被災自治体の党議員が県に申し入れ

29日、日本共産党鳥取県委員会は、鳥取県にたいし、鳥取中部地震にたいする第五次の申し入れをおこないました。申し入れには、塚田成幸東・中部地区委員長（衆院1区候補）、佐藤博英倉吉市議、長谷川昭二北栄町議、増井久美湯梨浜町議、市谷知子県議、岩永尚之県書記長が参加しました。冒頭に、被災した1市2町の党議員がのべた発言（要旨）を紹介します。



森川復興責任者に申し入れ書を手渡す佐藤市議他

【長谷川昭二北栄町議】

り災証明のことで、今朝も相談があり、役場にいきました。二次調査で低ければ、そちらを優先といわれ、受けてはいけないかのようで困惑しています。一部損壊にも支援がされるのは良いことですが、高い方で柔軟に対応してほしい。仮調査で、高い方を採用するなどしてほしい。

北栄町は蔵、物置、作業場、車庫にも支援します。ぜひ、県も上乗せで支援してほしい。

【一次調査と二次調査】 一次調査は建物の外観（屋根、壁、基礎）のみを調査し、損害割合を計算。罹災証明書は一次に基づき発行されますが、被災者が申し立てれば二次調査で床や柱、建具など内部を再調査します。「よほど家の中が壊れていないかぎり評価は下がる」との見方がある一方、熊本では42%が一次より重くなった例も。県も市町も「より詳細な二次を採用する」立場です。

【増井久美湯梨浜町議】

「二次調査を受けないことにした」という方や、「評価が軽くなっても中を見て欲しい」という方などみなさん戸惑っておられます。気が済むまで、納得いく調査をしてほしい。お墓が倒れ、骨壺が見え、ブルーシートをまいているなど、高齢者はお墓への思いはつよいものがあります。神社やお寺も支援の対象外だが、なにか援助ができないものか、検討してほしい。



右から、塚田、佐藤、長谷川、増井、市谷の各氏

【佐藤博英倉吉市議】

り災証明が一部発送されているが、全体の被害届けは出ていないし、声が届いていない状態です。

みなさん不安な毎日を送っておられます。いまだ、車中泊やテントにいる人もおられます。一見落ち着いているように見えますが深刻です。

仮設・みなし住宅を要求してきましたが、全壊、半壊だけでなく、20%の損壊でも、とても住める状態にありません。希望者が全員入れるよう、手立てを講じてほしい。